

第1回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年6月8日(木) 午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 総合体育館大会議室
- 3 出席委員 会 長 長沼 豊 氏
副会長 新井 喜代加 氏
委 員 宮澤 陽子 氏
委 員 加藤 慎介 氏
委 員 矢野 麻美 氏
委 員 横内 俊哉 氏
委 員 柄澤 深 氏
委 員 青山 織人 氏
委 員 櫻井 貞文 氏
- 4 事務局 伊佐治教育長、逸見次長、坂口教育監、大島スポーツ本部長、山本スポーツ事業推進課長、小西教育政策課長、清沢学校教育課長、丸山学校教育施設担当課長、石川生涯学習課長、甕地域づくりセンター長、清澤文化振興課長、幅部活動地域移行統括コーディネーター、高山学校支援室指導主事、齋藤スポーツ事業推進課主査、降籬教育政策課係長、竹内教育政策課主査、千賀教育政策課主査、脇谷文化振興課主事

< 会議事項 >

松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会役員選出について
役員選出

会 長：日本部活動学会副会長、大日向中学校長 長沼 豊 氏

副会長：松本大学健康科学研究科准教授 新井 喜代加 氏

子どもの「やってみたい！」を応援する_ガクトまつもとプロジェクト
高山指導主事が説明した。

(委 員) やりたい生徒はできる。やりたい先生もできる。そうでない生徒、そ
うでない先生はちょっと無理しないで、といったこともいえるような
環境を整えていくことが大事だと思います。

地域移行モデル事業に関する報告

幅統括コーディネーターが説明した。

(委員) バドミントン部があるところが、女鳥羽、安曇、大野川、奈川4校しかないと聞いた。バドミントンはモデル事業が動いていて、5回開催して35人となっているが、実施状況の分析はどうなっているか？部活動の移行を踏まえて参加できているのか、女鳥羽中学校の皆さんが来ているのか、逆に今までバドミントンがなかったから選択肢が広がってこういった状況となっているのか。

(山本課長)

山三校の子は参加していない。女鳥羽中の生徒の参加は少なかったと思う。毎回約10人前後の方が参加してくれているが、女鳥羽中学校の生徒は平均2名。やってみたい部活として要望が多いが、まだまだ参加人数は少ないので、これからしっかり周知していきたい。

(委員) 地域移行といった視点だけでなく、子どもたちにとっての選択肢が増えるといった意味ではモデルケースとしては良い内容だと思う。

(委員) 学校丸ごと移行型の梓川中学校のバレーボール部の課題で、「中学校の先生が全然かかわらなくなるのは困る。練習試合を組むことは一般の人にはできない」とあるが、制度的な限界があるのか？

(幅統括コーディネーター)

今現在は顧問同士の話だと思っている。ほかのところクラブ活動化していけば可能だと考えている。

(委員) 梓川のケースで指導者が30年教えているそうですが、後継者が心配されるが、その辺はどうか？

(幅統括コーディネーター)

おっしゃるとおりで、今教えている方々も心配している。教え子が手伝いには来るが、指導者としてはまだ不十分。種目によって状況は違うが、大きな課題と思っている。

(委員) 全国的に地域移行では指導者はどうするのか？お金どうするのか？といったところが課題となっている。松本市としてはかなり進めているといった印象がある。これがどのように他の地区に拡大していくか、あるいは他の種目等に拡大していくのかが求められると思う。

休日部活動の地域移行スポーツ競技団体取り組み状況

山本課長が説明した。

(委員) サッカーのことについて、菅野中、信明中が廃部されるとなっているが、サッカーをやりたいと思ってもできないのか？部活としては復活させる予定はないのか？

(幅統括コーディネーター)

子どもたちが減ると先生も減る、顧問も必要となるので、復活は厳しいと思う。

(委員) 個人的には復活させない方が良いと思っている。復活させると、せっかくクラブを立ち上げていってもいろいろな団体が乱立して、施設利

用でバッティングしたり、人の取り合いになるので、そのあたりのところをしっかりと制度の中で統一見解を持ちながら進めた方が良いと思う。中体連登録とクラブ登録はサッカーはかなり厳格に制限していて、くっきりと色分けされているので、そのあたりが子どもたちにとってどう思うか心配だと思う。

(委員) 文化系の部活についても移行の対象となるのか？そういったものの受け皿はどのようになるか？

(幅統括コーディネーター)

文化系の部活についても考えている。現在スタートしているのは波田の合唱クラブだけだが、ほかの部も当然考えている。吹奏楽の移行はスポーツ以上に難しいので検討が必要。休日はやらない部もあるので、その辺も考えていかねばならないと思う。

(委員) 「休日部活動の地域移行スポーツ競技団体取組状況」に書かれている競技団体以外の団体はは怎么样了のか？回答がないのか？また、剣道、柔道は道場でやっているが、そこの関わりは怎么样了のか？

(山本課長)

現状としては学校に存在している部活動のみでプロジェクト会議を実施している。まずは現在部活に入っている子どもたちを数年の間にスムーズに移行できるか、小学生の5、6年生がどういった形で受け入れられるか、検討が必要だと考えている。

(委員) 指導者の確保が難しいと聞いているが、指導者になるには資格などの基準があるのか？

(山本課長)

城東バドミントンはこだわりがあり、資格取得しているが、今後、すべての方がそういった資格を取得することは難しいと思う。費用もかかる。本来であればクラブチームを立ち上げるにはしっかりと資格を取ってほしいところだが、スポーツ事業推進課でも補助制度を作っているので活用してほしい。

(委員) 別紙4の中にヒントがたくさんあると思う。色々な工夫をしながら子どもたちのためにやっていただいていると思う。全国的に少子化が進むので、子どもの奪い合いになる、良き指導員がいて、保護者負担が安くて、会場がとれる。それをやった種目に人が集まることになってしまうので、言い方は悪いが、その競い合いになるので、今から手を打っていくことが大事。各種目団体も全国とタッグを組んで各地域のクラブを育てていく仕組みが大事だと思う。

部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査の結果
高山指導主事が説明。

(委員) 先生方は子どものことを思うがゆえに手を抜けない。子どもが輝く場

になるので手を抜けない思いがあると思う。

- (委員) 先生方のアンケートを見て、先生以外の指導者の確保が課題と思った。先生方は大変ご苦労されて指導していたのだと思った。
- (委員) アンケートの結果によく出ている。中学校の先生によっては負担感もあれば、新たな面が見れるといった意見もあり、一概には言えない。難しいなと思う。

部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題点
降旗係長が説明。

- (委員) 学校現場としては待たなしで令和6年に入学してくる。子どもたちに何を選んで活動できるのか、提示ができないことは避けたい。地域移行をして学校から離れたクラブにほかの学校の生徒が自由に選択できる仕組みを市として全体として構築してほしい。
- (委員) 途中でそのクラブが存続しなくなってしまった場合は路頭に迷う生徒が出てしまう。最後まで継続して見届けられるようにしてほしい。送迎の問題と合わせて、市として生徒や保護者に説明できるように整えてほしい。
- (伊佐治教育長)
4月から来られる方に紹介できるようにすることはおっしゃる通りだと思う。モデル事業やスポーツ事業推進課で整えているものを提示できること、可視化することが大事だと思う。地域の方に任せただけの場合、途中で立ち行かなくなることも致し方ないと思う。ただ、今までは部活だったためにやめられなかったが、今後は子どもたちが選択できるようになる。子どもでも理解して、自分のかかわり方を自分で選択できることは良いことだと思っている。
- (委員) 市内にいくつか芸術文化振興財団が運営している施設がある。そこには専門の職員もいるので、こういったクラブ活動の支援、関与していく時代になってきている。現場の皆さんにはこういった地域的な課題と期待があることを理解して対応がとれるようになってほしい。
- (委員) 指導者の確保について、行政から産業界に働きかけてほしい。地域の子どもたちのために、働き方改革として企業にも協力を促すような、今までのやり方と発想を大きく変えていかないと成り立たない。地域の子どものためなら15時に仕事を終わってもいいなど、会社側に理解してもらうこともよいかもかもしれない。
地域にも専門的知識を持っているスタッフがたくさんいるので、適正な価値として対価をきちんと払えるような仕組みをどうやって作っていくか。地域のスポーツクラブの皆さんも金銭を気にされている方が多いので、そこが重要だと思う。

(閉会)